

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	・夏の観光シーズンを迎えて、観光需要が本格化することを期待している。ゴルフ目的の客を中心にインバウンドが増えていることもプラスである。前年との比較では、国体開催のような特殊要因がないこと、修学旅行客が前年ほど見込めないことなどから、減少が見込まれるものの、例年並みかそれ以上の入込がみられると期待している。
	◎	観光名所（従業員）	・当地を舞台にした劇場アニメのシリーズ作品について、サブスクリプションでの配信が海外も含めて行われたことから、国内外からのファンによる聖地巡礼が過熱することが期待できる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・好天が続くなか、クルーズ船の寄港が多くみられること、アジアからの観光客が多様化していることなどから、6月の売上は想定以上のものとなった。こうした動きは今後も続くと思われることから、景気はやや良くなる。地元客から想定を上回る賃上げがあったとの話が聞かれることもプラスである。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・これから年間で最も売上の良い時期を迎えることになる。また、今年は取引先からの受注量が増えていること、客単価が上昇傾向にあることから、今後の売上は大きく増加すると期待できる。
	○	百貨店（売場主任）	・今後もインバウンドと国内の富裕層による購買が好調を維持すると見込まれる。
	○	スーパー（店長）	・今年の夏は例年よりも気温が高くなると予想されていることから、猛暑対策として衣料や日用品の動きが活発になると期待している。そのため、現状と比べて多少は景気が良くなる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・夏の観光シーズンを迎えること、暑い夏が予想されることから、来客数は増加することになる。ただし、現状を踏まえると、楽観視できる状況でもない。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	・イベントや行楽に出掛ける人が増加するとみられることから、それに伴って衣料品への支出が増加すると期待している。
	○	旅行代理店（従業員）	・夏季繁忙期を迎えて、国際線の就航が活性化し、インバウンドが増加することが期待される。ただし、国際線の就航については、地上業務の人手不足や2024年問題、燃料不足などの影響で、新規国際路線やチャーター便の運航に支障を来すケースが顕在化しており、それらの影響が懸念される。今後の観光客回復に影響を及ぼす事案のため、観光関連事業者からは早期解決を望む声が強まっている。
	○	タクシー運転手	・タクシーの売上は天候に大きく左右される。例年4月から6月にかけては年間で最も客の利用が減る時期であり、6月下旬から気温の高い日が増えてくることで少しずつタクシーの稼働が上向くことになる。特に今年は7月以降、暑い日が多くなると予想されているため、タクシー1台当たりの売上も徐々に良くなる。また、乗務員が増えている分、会社の売上も前年比プラスで推移することになる。
	□	商店街（代表者）	・物価上昇が続くなか、賃金の上昇が追いついていない。社会保障や税の負担が増えていることもあって、先行き不安が払拭されない限り、消費が活発になることはない。
	□	商店街（代表者）	・外国人観光客が好調に推移しているものの、若干の陰りがうかがえる。本来であれば、外国人観光客の北海道観光は冬がメインであるため、仕方のない面もあるが、これまでに余りみられなかった国からの観光客が増えていることもあって、景気が上向くことを期待している。
	□	スーパー（企画担当）	・国によるエネルギー関連の補助金が終了したものの、8月からの3か月間、補助金を再開することが決まったことから、今後の景気は落ち込むこともなく、現状を維持する。
□	コンビニ（エリア担当）	・し好品の消費が減っていることから、全体売上が落ち込んでいる。今後についても横ばいで推移することになる。	

<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・物価が上がっている一方で、客単価が低下していることから、売上が増えてこない状況にある。今後もこうした動きは変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・自動車メーカーの認証不正問題が新たに発生したことから、厳しい状況が続くことになる。また、物価上昇や円安などの様々な課題が複合的に絡み合い、消費者の購買意欲を低下させていることもマイナスである。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・賃金のベースアップが行われているが、物価の上昇に追いついていないことから、現状と変化のないまま推移することになる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・6月末に主要車種のモデルチェンジが予定されていることから、今後しばらくは受注量のやや良い状況が続く。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（役員）	・定額減税の効果で支出が増えることを期待している。ただし、今後も商品の値上げが続くと見込まれるため、全体的には客が買物を控える傾向は変わらない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [医薬品]（経営者）	・機能性表示食品が増加するなか、広告の誇大表示がみられる。健康に関連した情報についても、不適當なものがみられ、全うな商売をしている事業者にとっては由々しき問題である。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [造花]（店長）	・インバウンドの影響も特にみられないため、これから観光シーズンを迎えても変化はないとみられる。今後については、地元客にターゲットを絞った対策を行うことを考えている。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・物価高や人材不足の影響で利益が少なくなっているため、今後も景気は上向いてこないとみられる。政治不安が高まると、高級店の売上が上向きにくくなる傾向もあるため、今後への不安を拭えない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・原材料などの仕入価格の高騰に伴う値上げの影響に加えて、光熱費の負担増による消費意欲の低下が懸念されることから、6月と変わらない状況で推移する。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（経営者）	・ジェット燃料の不足に伴う国際便就航中止の影響が大きく、すぐに解決できる見通しもないため、この先しばらくはインバウンドの集客が期待できない。地域経済にとっても大きな痛手である。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・収入の増加を上回る物価上昇によって旅行需要が減少している。大型商業施設内で営業している旅行代理店にとっては、インバウンド需要の恩恵も少なく、景気が好転するような材料が少ないのが現状である。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・国内旅行者とインバウンドは好調だが、日本人による海外旅行については、まだ回復してきていない。プラスとマイナスが相殺されており、景気は大きく変わっていない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・来客数は減少傾向にあるものの、今後、地域のイベントの効果で持ち直すことを期待している。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・物価高の影響で、人流が抑制されていることから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・今後の景気がどうなるかは分からない。これから本格的な夏場の観光シーズンを迎えて、コロナ禍前と比べて、客の動きがどの程度回復するかを注視している。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	・最近の傾向として、値上げするサロンが増加しており、値上げしないサロンはワンオペにするか、廃業することが多くなっている。人件費及び経費の高騰が影響しているためとみられ、今後もこうした傾向は変わらない。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	・景気が良くなるような要素は見当たらない。客からは、物価の上昇や年金が目減りしていることへの苦情が多く聞かれる。
<input type="checkbox"/>	その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー]（従業員）	・今後の輸送量については、現状とほとんど変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（経営者）	・観光客が増えているため、全体的な景気は徐々に良くなる。ただし、当業界において、建築単価が上がっていることを客に容認してもらえるようになるまで、もう少し時間が掛かるとみられる。
<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・客との会話において、景気が上向くような良い反応がみられなかった。明るい話題もなかったことから、今後の景気はやや悪くなる。

	▲	商店街（代表者）	・当地の夏祭りが8月に開催されるが、例年その後は周辺の町村及び郊外居住者の来街が減少することになる。外国人観光客及び道内外観光客、ビジネス客の動向にもよるが、現時点において、今後の来街者数の増加を見込むことはできない。
	▲	一般小売店（経営者）	・物価高や為替の影響が相変わらず大きい。経済対策にも期待できるものが全くないため、先行きについては不透明である。
	▲	スーパー（店長）	・客はより安い商材を求めて買い回りしている。物価高の影響で生活費にしわ寄せがきているため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（店長）	・個人消費が上向いていないことから、今後も厳しいまま推移する。
	▲	スーパー（店長）	・秋口から、更なる値上げの動きが見込まれており、報道でも取り上げられている。買物動向が上向いている状況ではないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（企画担当）	・ここに来て、電気・ガス価格激変緩和対策事業の再開が決定したことで、家計へのプラス効果が期待されているものの、連日の円安報道もあって、消費者の心理として、様子見の状況が続くことになる。客の買物動向が好転しているとはいえない状況にあるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（役員）	・農産物の価格変動が激しいことに加えて、一般食品の値上げも継続するとみられるため、今後、客の節約志向が強まることになる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・今年に入り、来客数が減少傾向で推移している。夏場は天候次第で来客数が増えることも考えられるが、例年と比較すると来客数は落ち込むとみられる。来客数が回復してこないと売上の回復も見込めない。
	▲	家電量販店（店員）	・エアコンの工事を行うまで日数が掛かるため、契約件数が減っている。エアコン以外の家電製品の売上も前年を下回っていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・販売量が微減傾向になっている。時期的な問題もあるが、物価高騰の影響が大きいことから、今後の乗換え需要は縮小することになる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・7月から8月にかけて、車両価格の引上げが予定されている。日銀のマイナス金利政策が解除されたこともあって、今後の販売が順調に進むかどうか微妙な状況となっている。むしろリコールが増えていることで、売上がやや減ってしまうことが懸念される。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・依然として、景気が回復するような傾向がみられない。
	▲	旅行代理店（従業員）	・円安が更に進んでいることから、海外旅行の回復が見通せなくなっている。また、国内旅行については、インバウンドが増加していることで、国内客の団体予約が困難になることも考えられる。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・住宅ローンの金利動向が影響して、今後の景気はやや悪くなる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・節約志向の要因となっている円安に対して、有効な対策が出てこないことから、今後の景気は悪くなる。
	×	衣料品専門店（店長）	・スーツ離れの傾向が悪化の一途をたどっている。社会の風潮もオフィシャル感のある格好であれば良いという会社が大半を占めるようになっているため、何も売れなくなってきている。
	×	タクシー運転手	・賃金の上昇が物価上昇に追い付いていないことから、客が消費を抑制せざるを得ない状況にある。今後の景気を上向かせるような材料が何もないことから、景気は悪くなる。
	×	美容室（経営者）	・中小企業にとって、厳しい状況が続くことから、今後の景気はますます悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・所得の伸びが物価の上昇に追い付いていないことから、分譲マンション市場ではより安価な商材へのシフトが起こっており、市場が縮小傾向にある。こうした傾向は所得の伸びが物価の上昇率を上回るまで続くと思われる。
企業 動向 関連	◎	—	—
	○	農林水産業（経営者）	・前年は猛暑の影響でりんごが凶作となった。今年は天候も含めて、前年のようなことがないことを期待している。

(北海道)	○	金融業（従業員）	・ 今春の賃上げや定額減税の実施、燃料油価格激変緩和対策事業の期間延長、電気・ガス価格激変緩和対策事業の再開などが、個人消費の下支えとなることを期待している。	
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・ 土木建設需要は当面堅調に推移することが見込まれるため、今後の景気はやや良くなる。	
	□	家具製造業（経営者）	・ マーケットが活性化するような要因が見当たらない。	
	□	建設業（経営者）	・ 今後については、受注が進むとともに、稼働量が上向くことになる。一方、建設資材の価格が高止まりしている。また、時間外労働の上限規制については、仕事の内容をチェックした上で交代要員を充てるようにしているが、一部の職種では厳しい状況にある。労務費や人件費などのコスト増加の影響がどの程度になるかはっきりしないこともあって、今後も景気は変わらない。	
	□	建設業（従業員）	・ 現在の技術者不足は10年単位で取り組まないといけない問題であり、簡単には改善されないことから、今後も景気は変わらない。	
	□	建設業（役員）	・ 上半期の完工高は既に見通しが立っている。今後については、人件費などのコストアップを吸収し、計画どおりに利益を確保できるかが課題となっている。	
	□	輸送業（支店長）	・ 国内貨物も国外貨物も同じようなボリュームで推移するとみられるため、今後の景気も現状と変わらない。	
	□	司法書士	・ 相続登記の案件は今後も増加するとみられる。住宅の新築は減少しているものの、リフォームや不動産取引の件数がそれほど悪化しているわけではないため、今後も景気は変わらない。	
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・ 3か月先くらいまでの受注は確保できているが、人材不足でこれ以上仕事を取れない状況にあるため、当面は現状維持のまま推移する。	
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・ 客先の主体となる建築鉄骨加工業界の今年度の需要予測が、工事の延期や縮小などの影響で減少する見込みのため、余り良くない環境にある。	
	▲	食料品製造業（従業員）	・ 値上げ後の買い控えがみられ、商材の荷動きが悪くなっている。	
	▲	金属製品製造業（従業員）	・ 戸建て住宅について、着工数が上向くような要素が見当たらないことから、今後の景気はやや悪くなる。	
	▲	通信業（営業担当）	・ 景況感のプラス要素である観光については、これから需要の最盛期を迎えることになる。一方、過度な円安、エネルギー価格の上昇、それらに伴う原材料費高騰など、景況感にマイナスとなるような不確定要素も多い。これらのことから、先々の景況感は今より下向くことになる。	
	▲	広告代理店（従業員）	・ 円安の動きが止まらず、更なる値上げへの懸念が収まらないことから、今後の景気はやや悪くなる。	
	▲	司法書士	・ 円安の影響により、物価の上昇が続いており、今後も下がる気配はない。このため、今後の景気は徐々に下向くことになる。	
	×	—	—	
	雇用 関連	◎	—	—
		○	*	*
		(北海道)	□	人材派遣会社（社員）
□			求人情報誌製作会社（編集者）	・ 畑作や畜産、酪農など、地域の基幹産業においても、円安に伴う物価高騰の影響が少なからずみられるようになってきている。ただし、全体的には今後も現状維持で推移するとみられる。
□			求人情報誌製作会社（編集者）	・ 中小企業の多い北海道では、大きな起爆剤がない限り、現状維持で推移する。
□	求人情報誌製作会社（編集者）		・ 地場の中小企業から、経営の余力がないといった声をよく聞く。ぎりぎり踏みとどまっている企業が多く、今後の円安、物価高、最低賃金改定などの状況によっては、ますます厳しい状況となることが懸念される。	

□	職業安定所（職員）	・当地における5月の新規求人数は前年比でマイナス1.7%となっており、月間有効求人倍率は14か月連続で前年を下回っている。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
□	職業安定所（職員）	・新規求職者数は増加したものの、有効求職者数は減少している。新規求人数は増加しているものの、物価、資材価格、燃料費、電気料金の高騰による受注量の減少や収益悪化など、経営の先行き不透明感が強まっていることから、当面現行人員で対応しようとする事業所もみられる。これらのことから、求人数の増加が景気の回復に直結しているとはいえない状況にある。
□	学校〔大学〕（就職担当）	・急激に採用状況が良くなるとは考えにくいことから、今後も景気は変わらない。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・円安や物価高が収まらない限り、中小企業の景況感は変わらない。むしろ厳しさを増すことが懸念される。
×	—	—